

## 小論文関係用語

2005年2月5日 安倍富士男

参考文献：「小論文の演習 読む・まとめる・書く」伊原勇一 桐原書店

(用語の定義いろいろ)

小論文とは	小論文とは「小規模な論文」のこと。 論文とは、「意見を述べて議論する文章。特に学術研究の成果を筋道を立てて述べた文章」なので、小論文といえども、「筋道」「論理」が大事。
小論文の鉄則	だれもが理解できる首尾一貫した論理に従って、自分の考えを述べていくのが小論文の鉄則。
小論文を書くには	1 問題提起の「序論」 2 自分の意見を具体例も交えて書く「本論」 3 全体のまとめである「結論」 以上の三段構成で書くのが基本。 大学入試では、字数制限があり600字から800字がいちばん多い。
作文との違い	作文 自分の経験や見聞きした事実に対する印象や感想を実感を込めて述べる。 小論文 社会的事象や人間一般に関して、論理的・客観的に論述する。
違いを具体例で示すと	作文であれば、自分の友人を取り上げ、その人の正確や自分との関係、エピソードなどを、自分の印象や感想を中心にして書いていく。 小論文では、友人とはどういうものか、真の友情とは何か、さらには人間の一生の中で友人とはどういう意義を持つか、といった掘り下げが必要。 作文が自分中心に書くものであるのに対し、小論文は読み手を意識し、社会的な視野に立って書く。

(要約とは何か?)

文章の大切なところを短くまとめること

小論文でも課題文の要約をさせた上で、自分の意見を述べる型が多い。

要約では読解力と表現力の2つが問われるから。

文章を正確に読み取り、大切な部分を簡潔にまとめる力は、自分の意見を述べる際の前提条件。

文章の要旨がつかめていなければ、それについてきちんとした意見を述べることはできないから。

(要約の手順)

不必要な部分を切り捨て、大切な部分を残し、それを短くまとめる。

具体的には以下の通り。

1	文章を読み、繰り返し出てくる語句やキーワードを捉え、全体の内容と構成を把握する。副詞や接続詞などに注意し、文脈を的確にとらえる。
2	筆者が何を主張したいのか、それを述べた中心文を見つける。
3	筆者が考えを述べている部分と、具体例・事実の部分とを区別する。
4	要約文を組み立てるときには、具体例・事実の部分とを削り、重複する内容は1つにまとめ、制限字数に収める。

(要約と意見)

最近の小論文で出題されるケース。課題文を読んで要約し、そのうえで意見を述べるという型式が多く出題されている。

要約	筆者の意見や結論を中心に制限字数内にまとめる。
意見	筆者の意見に対する自分の立場をはっきりさせる。 賛成か反対かを全面的に決められない場合でも、この点で賛成、この点で反対というように、自分の態度をはっきりさせる。 筆者の意見と無関係な意見を書くのは論外。 自由に書けという場合でも、文章の主旨からはそれれば見当はずれの小論文と解される。
筆者の意見に賛成の場合	筆者の意見をそのまま繰り返すだけでなく、 1 筆者の考えを詳しく分析したり、 2 筆者の意見を発展させたり、 3 筆者の提出した問題点をもとに視野を広げたりして論じるのがよい。
筆者の意見に反対の場合	次はケースは避けたい 1 筆者の意見とまったく関係のない主張をしたり、 2 細かな部分にだけこだわったり、 3 感情的な反論になってはいけない。 次のようにするのがよい。 1 筆者の意見の不十分な点や矛盾点を指摘し、 2 別の視点から論じたり、 3 客観的な証拠をあげて論じるのがよい。
意見の方向性	小論文では、消極的・悲観的な意見は好ましくないで、プラス志向・前向きな姿勢で述べる。ただし、なんでも認めるというのではなく、是は是、非は非として批判すべきは批判する。批判だけで終わってしまっはいけない。現状をどう改善したらよいか、今後はどのような方向に向かうべきかといった対策を述べなければならない。

(小論文の文体)

常体の使用	簡潔で明快な常体(だ・である)を使う。敬体(です・ます体)は手紙や感想文のような印象を与え、字数も増えるので使用しない。
あいまい語尾をさける	「~と思う」「~かもしれない」「~だろう」などはなるべく使わない。 「~である」「~だ」のように明確に言い切る。
一文は短く	文が長くなると主従関係や修飾関係があいまいになる。 長くても60字程度を目安に文を結ぶ。 適宜、接続詞を使って文をつなぐ。